

園芸科20人剪定学ぶ 偕楽園で水戸農高生実習

茨造協

県造園建設業協会（田中資康会長）は14日、県立水戸農業高等学校の生徒を対象に水戸市の偕楽園で梅の



鹿島教務主任
兼園芸科長



田中会長

剪定講習会を行った。会員が講師を務め、園芸科1、2年生の希望者20人が剪定方法や道具の使い方などを指導した。

冒頭、田中会長は「都市の緑地や公園、道路の街路樹、そういった緑地を守っていくためには必ず剪定が必要となる。今日は基本的な剪定を皆さんに体験してもらえればと思う。楽しみながら学んでもらいたい」とあいさつ。

引率した教務主任兼園芸科長の鹿島正浩氏は「本日は造園に興味を持っている



現代の名工やものづくりマイスターが指導した



参加者全員で記念撮影

生徒たちが参加している。皆さまから文化と伝統、巧の技を見せてもらい、将来は皆様と一緒に仕事ができる生徒が育ってくればいいなと思っています」と期

待を寄せた。

実習は「卓越した技能者（現代の名工）」や「ものづくりマイスター」のベテラン会員8人が担当。最初に会員が剪定した梅の木

を見本に、剪定する枝の選び方や剪定のコツなどを伝えた。続いて各班に分かれ、狸々梅林で実習を行った。生徒たちは声を掛け合いながら一生懸命に剪定し、

会員にも積極的に質問を寄せた。

同実習は今回で9回目。生徒の造園への興味・関心を高め、郷土に対する誇りや愛着心を高めてもらうと実施している。